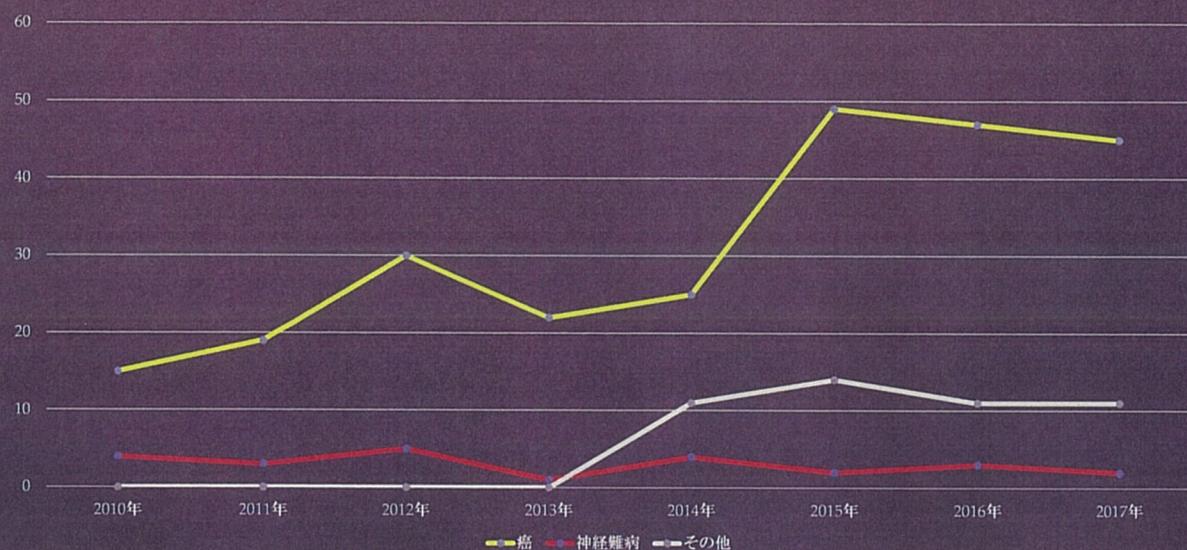
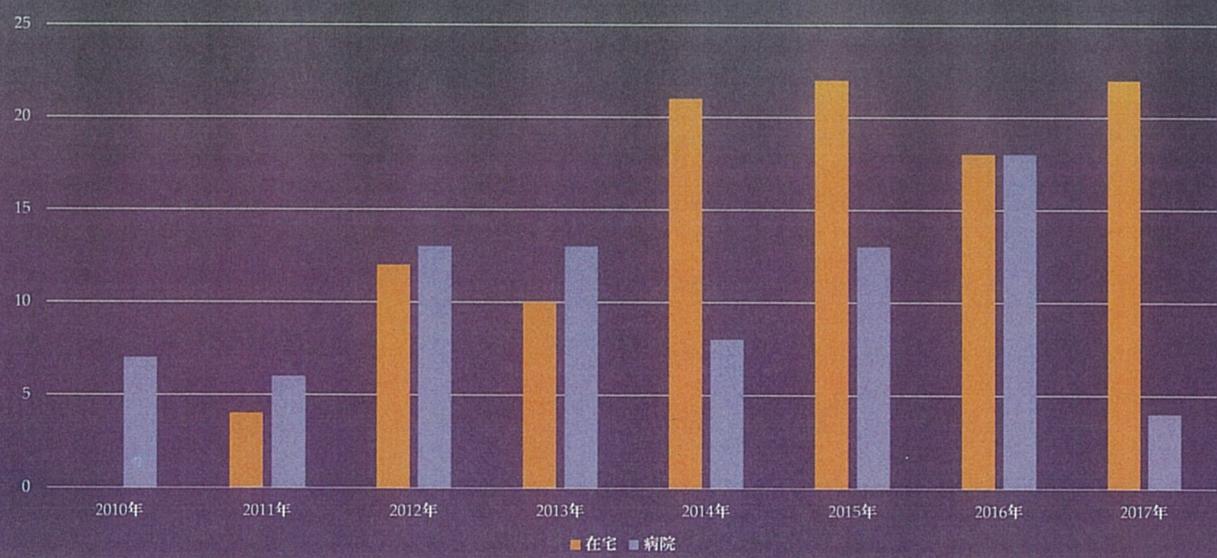


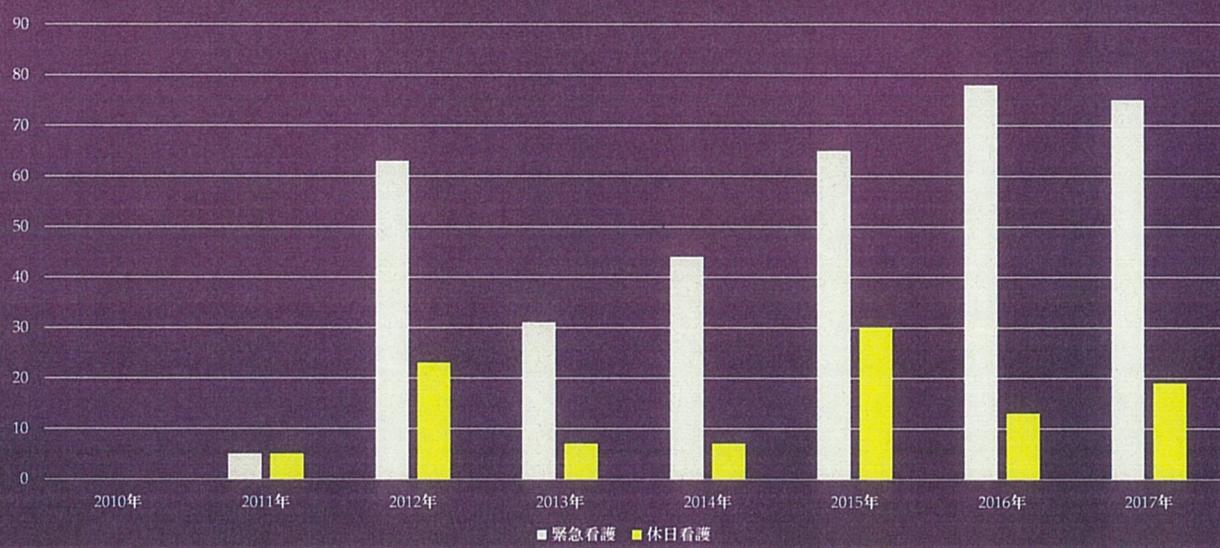
訪問看護利用者の疾患



利用者の逝去場所



緊急・休日訪問件数



79

**在宅看取りを可能にする訪問看護師の対応
～当院の在宅医療の取り組み～**

○伊丹加奈子 水田和代 平井千鶴
鹿児島県立海部病院 看護局 地域支援室

在宅看取り！出院の在宅医療を利用し、自宅で死亡すること

在宅看取りにいける患者の対応
在宅で過ごすために、何が不安なことをすれば在宅看取りができるかアセスメントを行う
- 24時間365日対応できる在宅医療体制が整っている
- 症状コントロールができることが重要で、症状が出る前に対応する
- 不安を軽減するために、検査や会社問診に対する
家族への死の準備教育を行う

高齢化社会を越え
より、厚生労働省
かっている。
内は複数疾患がな
地域である。
安心して生活が
目的で、当院は
医療を開始し、
取りも行っている。

方法
月までに当院の在宅医療を利用し死亡した患者123名を「在宅死亡(69名)」と病院死亡(54名)で比較した。
上でグループ化ショットし、当院の在宅看取りを可能にしている背景を抽出し、カテゴリー化した。
訪問看護師のどのような対応が在宅看取りにつながっているのか分析した。

院を利用し死亡した患者の比較

2015年度
在宅死亡 22名
病院死亡 13名
合計 35名

患者の年齢構成
年齢層別
性別別

患者の家族構成
配偶者
子供
孫
孫の配偶者
孫の配偶者の子供

スカラシップ
取りを可能にしている背景

第55回全国自治体病院学会
平成28年10月20日

優秀演題に選定

**海部郡在宅医療・訪問看護推進フォーラム
「やっぱり家が一番や」**

海部郡でも「住み慣れた家でその人らしく」生活できる地域づくりを推進するため、海部郡医師会・徳島県看護協会・徳島県立海部病院の3者の連携を強化しました。この度、在宅医療と訪問看護の地域への普及・啓発のためにフォーラムを開催します。住民の皆様をはじめ、医療・介護従事者の方々など多数のご参加をお待ちしております。

2018年8月11日(土)13:00~15:10
場所：徳島県立海部病院 2階 講堂

1. 開会 13:00-13:05 徳島県立海部病院 院長 坂東弘康
2. 挨拶 13:05-13:15 徳島県看護協会 会長 多田敏子 様
3. 講演 13:15-14:35
 ● 基調講演 13:15-13:55
 「人生のハッピーエンドを迎えるために～できれば自宅で最後まで～」
 講師 木下ファミリーカーニック 院長 木下 英孝 先生
 講師 徳島県立海部病院 総合診療科 河南 真吾 先生
 ● 講演① 14:05-14:25 「訪問看護の役割」
 講師 徳島県立海部病院 看護部長 塙瀬 昌代 氏
 講師 訪問看護ステーション海部 担当管理者 麻原 都恵子 氏
 ● 講演② 14:25-14:35 「家族の在宅療養を体験して」
 講師 患者家族代表 戸田 真理子 氏
 4. 質疑応答・意見交換 14:35-14:55
 5. 総評 14:55-15:05 海部郡医師会 会長 松田啓次 先生
 6. 閉会 15:05-15:10 徳島県立海部病院 看護局長 町田美香

主催：徳島県立海部病院、共催：海部郡医師会・徳島県看護協会





地域医療実習報告会



平成20年度に開始され、現在まで
1000名以上の医学生が参加



- * 採血実習などは地域の方の思いで成り立っていることが分かった
- * 徳島で研修するなら海部病院にも来てみたい
- * 住民が開放的で、お話をするのが楽しい
ここで働いても良いかもしない



新たな専門医 プログラムに発展

徳島県（初のプログラム）



南阿波総合医・家庭医養成プログラム
【H23年度】

指導医：谷憲治教授、河野光宏講師、
清水伸彦助教、田畠良助教

専門医資格の取得

2017

1) 感染症: 9人目(徳島)

他の研修病院: 大学、中央

2) 呼吸器内視鏡: 255人目(中四国)

他の研修施設: 大学、中央、鳴門、吉野川医療C

3) 内科: 185人目(徳島)

他の研修病院: 11施設

目的		方法													
<p>海部病院の2017年5月の新医療機器移設に伴う電子カルテ停止や生理検査・画像診断機器の移設のために救急外来を一日間止めざるを得ない状況に直面した。</p> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 海部病院は、海部都内の二次救急医療機関で、連休中は多くの宿泊客や観光客で人口はいつもより倍増 ✓ 5月連休中の別年の海部病院救急の状態 平均救急外来患者 1日 約25-30名 平均救急搬送件数 1日 3-4件 ◆ 県中央部へは遠方（車で1~1.5時間） <p>「救急医療空白」は過疎地域にとって大きな問題</p>		<p>海部病院救急部門移設ミッション</p> <p>都道・県道モデル化を利用して、2017年5月3日から6日までの4日間、救急業務を海南病院に移設することを2か月前に計画</p> <p>徳島県立海部病院（102床） → 海南町立海南病院（40床） 15 km</p> <table border="1"> <tr> <td>救急体制</td> <td>2次</td> <td>2次</td> </tr> <tr> <td>常勤医師</td> <td>9名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>時間外血液検査</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>時間外CT/MRI</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> </table>		救急体制	2次	2次	常勤医師	9名	2名	時間外血液検査	○	×	時間外CT/MRI	○	×
救急体制	2次	2次													
常勤医師	9名	2名													
時間外血液検査	○	×													
時間外CT/MRI	○	×													
結果															
<p>部門別個別協議 (医療部門: 看護部門、放射線科部門、検査部門、薬剤部門、事務部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海部病院の各代表者が1か月前から海南病院と打ち合わせ開始 ・ 技師による検査機器、画像機器の事前の動作確認 ・ 使用薬剤の確認、海南病院で足らない薬剤は海部病院から補填 ・ 救急室などの導線確認 ・ 人件費、物品費など事前確認 <p>カルテ参照システム 海部病院にかかるている患者の情報 既に導入している「海部・都道府県医療ネットワーク」を活用して海部病院カルテを海南病院で参照可能</p>	<p>住民への周知 海部町全家庭に新聞折り込みで配布</p> <p>■実習実績の開催日は 5月9日(土)です</p>	<p>救急隊との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重傷者、多発外傷は直接に高次医療機関へ搬送 ・ 海南病院からの医師同乗による転院搬送は困難 <p>海部病院、海南病院、別の施設との連携打ち合わせ会議</p>	<p>海部病院・海南病院職員配置プラン</p> <p>今回のミッションに参加職員数</p> <p>海南病院での救急外来の実数</p>												



The image consists of two panels. The left panel shows the exterior of a hospital building at night, with the logo 'Q 海部病院' (Kaihoku Hospital) visible above the entrance. The right panel is a dark background with white text: '徳島大学総合診療部と連携 専攻医の受け入れを 積極的に進めます' (We will actively promote the acceptance of specialized medical students by the Department of General Medical Services of Tokushima University). At the bottom right, there is a logo for '徳島県立海部病院' (Tokushima Prefectural Kaihoku Hospital), which includes three stylized green turtle or fish icons.

第6回
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
中国・四国支部学術集会

会期

2019.6.8(土)

会場

徳島文理大学

会長

坂東 弘康

徳島県立海部病院 院長



